

Nov. 1933.

315

北米の南部低地を通過した海流はアフリカ及びブラジル間を北進する海流と出會つて北西に轉向せしめられ北米東岸の諸州を浸した。兩海流の會合點では種類の混淆が起ると共に、ニュージーランドから運ばれた或種類は西方に運ばれて Barbados に沈積した。同様にパナマを通過して北大西洋に入つた種類も南方から北東に向ふ海流に捕へられて歐洲に沈積する結果となつた。カリフォルニア及びモロンに就いて調査した處によると、カリフォルニア産の屬のうち其 90% 以上はまたモロンにも産することが知られた。又カリフォルニア産の *Coscinodiscus* は 22 種を算するがそのうちの 14 種はまたスペインにも産する。

WEGENER の大陸移動説によつて地質時代に於ける海産珪藻類の分布を適當に説明し得るやうであるが、地質學者のうちには WEGENER の説に反對の態度をとる人が少くない。IRMSCHER は植物分布の説明について、故小澤博士は紡錘蟲の分布について何れも大陸移動説を利用してゐる。生物學或は古生物學上の此方面の研究は將來に期待されることが多いであらう。

(米田勇一)

石戸谷勉：—漢藥の研究第一編, (T. ISHIDOYA: Chinesische Drogen, Teil I. 1933).

古來東洋に行るゝ漢藥の生藥材料は如何なるものより構成せらるゝかは一々其漢名を附して生藥者間に行るれども、材料は植物體の一部に過ぎざるを以て之を同定するは實に至難の業とせられたり。然るに著者石戸谷氏は元來林學者にして植物學的藥學を修めし人にあらず、永らく朝鮮林業試験場技師として朝鮮の林業に盡くす所ありしが、益其技能を發揮せんとして俄に試験場を去るに到りしは、當時世間の最も奇怪とせし所なり。其後氏は感ずる所あり専ら生藥の研究に没頭し俄に氏の専門を改むるに到り永年刻苦精勵の限りを盡くし何人も未手を染めざる支那生藥研究を大成するに到り。氏が試験場を去る時關係せし者共茲に到り此研究を見て恐らくは啞然たらざるを得ざるべし、石戸谷氏の如きは實に古今稀なる人として激賞すると同時に之が研究を援助せし藤澤樟腦を以て有名なる故藤澤友吉翁に大なる敬意を拂はずんばあるべからず。

第一編には全草本藥材三十二種、葉藥材十一品、花藥材十五品、種子果實藥材八十四品に就き記されしものにて一々圖を以て之を説明するのみならず、各藥材には皆之を検索すべき表を掲げ親切丁寧を極めしものである、之を以て今まで全く暗黒なりし生藥の檢定に一大光明をもたらしたるものと云ふべく又不朽の名著と云ふべし、書は單行本にして京城大學藥理學教室の出版物なり。

(Z. Y.)